ドクターファウラー（Dr. Fowler）の解説

頸椎損傷患者またはその可能性のある外傷患者に対する永年の管理のあり方に関して言えば、わたし達のような EMS システム管理に関与している者によって再検討されるべき時期が到来していることは今や明らかです。

理解すべき重要な点は、頸椎損傷を伴うほとんどの外傷患者には外見上の伸張は認められないと言う事実です。それはいわば、足首の捻挫につて一瞬考えてみることに似ています。足首をひねった患者が診療に来た時、通常レントゲンでは異常は認められませが、青く腫れ上がってしまっていますよね。その理由は、靭帯が損傷しているからです。

頸椎損傷は、骨折とは対照的に靭帯的損傷を認めた大抵の事象と似ていることがわかります。また最近の研究でもこのことが明らかになりました。特にテキサス州ヒューストン市 EMS システム外傷ネットワークで最近行われた死体検査及びコンピュータ 3 次元断層撮影の復元により、靭帯的頸椎損傷を伴う患者の首を引っぱるようなものは何であれ首を伸張させる可能性があることが示されています。
知っておかなければいけない“長く伸ばす”を意味する“distraction（伸張）”と言う単語があります。もし靭帯損傷患者を固定する際に首を伸ばしてしまうと、明らかに脊髄を損傷させる危険を生じます。生存中は、脊髄は冷たいジェリー状の柔らかさを保っています、また伸縮にはまったく耐えられません。このような訳ですので、今や新パラダイム（理論的枠組み）を積極的に見直す必要があります。けん引が必須であるとの決定を下す現場の専門家の指図がない限り、もはや頸椎けん引を行うべきではありません。例えば、手術室で小関節面のズレを元の位置に戻す場合、十分注意したけん引が要求されます。しかし EMS の現場では、また実際には救急医療室であっても、首を引っぱるべきではありません。用語としての“頸椎けん引”は、退場させる必要があります。広く使用されている“頸椎固定”と言う古典的な用語も実際には首を少しだけ伸ばす際に固定するネックカラーに限定して使用すべきです。それさえもすべきではないことは明らかです。これが、救急医療業界が進むべき方向であることを提案します。頸椎固定（ネックカラー）に代わって、“**頸椎スプリンティング**”と言う用語を使用すべきです。
頸椎スプリントとは、損傷した腕またはひどく捻挫した足首をスプリントするように、用語として数分前に使用した“けん引（traction）”または“引き伸ばし（distraction）”作用なしに首を保護固定する器具のことです。新パラダイム

は、“頸椎スプリンティング（Cervical Splinting)”である事実について考えるよう切望します。計画を進め、救急医療機器の購入を開始するに当たって価格を検討する場合は、実際に“頸椎スプリント”として役割を果たす器具であるかを注意深く調査し、確認の上購入していただきたいと思います。

（Dr. Fowler はダラス市にあるテキサス大学南部医療センター救急医療学部の教授で、ダラス消防・救助局のオンライン医療指示医長です。）